

## 第1部

## 4. Chorus And the glory of the Lord

・四つの主題<①And the glory of the Lord ②shall be revealed, ③and all flesh shall see it together: ④ for the mouth of the Lord hath spoken it.>の特徴をはっきりと区別して表現する。

・④では、同じ音の反復なので、無内容な感じに陥る事無く、はっきりとしたアーティキュレーションで表現する。

・ヘンデルは、glory of を glo-ryof のように、2音節で作曲したが、決して glo-ry of を意図しているのではなく、glo-ry of のように扱うのが相応しいと思われる。glo- を大きめ、ryof を弱めに歌う事は論をまたない。

・gl は、まずはじめに l の準備をして、舌尖を歯茎につけ、その状態のまま二つの子音を発音する。そして l の前の子音の発音と同時に舌を降ろす。

・Lord は、[ɔ:] である。[ou] と、区別する。

And the glory of the Lord shall be revealed,  
 (ənd) (ðə) (glɔ:ri) (ɔv) (ðə) (lɔ:d) (ʃəl) (bi) (ri:vɛ:lɛd)

※金井先生より：発音上は[ri:vɛ:lɛd]だが、歌う音節の扱い上[ri:vɛ:lɛd]と発音せざるを得ないでしょう。

・revealed の [i] と [i:] を区別して発音する。

栄光 主 ~することになるだろう 啓示される  
 and all flesh shall see it together:  
 (ənd) (ɔ:l) (flesh) (ʃəl) (si:) (it) (təgeðə)

人類 一緒に  
 for the mouth of the Lord hath spoken it.  
 (fɔ) (ðə) (mãuθ) (ɔv) (ðə) (lɔ:d) (hæθ) (spóoken) (it)

・spoken の [óu] と [ɔ:] を区別して発音する。

## 7. Chorus And He shall purify

・イタリア風二重唱曲集の第15曲<夜明けに微笑むあの花は>の暁に夕暮れをもってに基づいている。この曲を歌う前に少なくともNO.5,6のバスのレチタティーヴォとアリアに目を向けなければならない。テキスト(聖書)が続いているからである。attacca(アタッカ)で演奏する理由でもある。

・最初に現れるコロラトゥーラ。四つの16分音符2回を単位として、軽いスタッカートで最後のヴァリアンテを注意深く歌う。

・12小節目からの別な音型をもつ主題は、シンコーションの形の2分音符を持つが、重くならないように落ち着いた線がリズムカルに正確に歌われなければならない。

And He shall purify the sons of Levi,

( ənd ) ( hi ) ( jəl ) ( pjʊərəfai ) ( ðə ) ( sɑnz ) ( ɔv ) ( li:vai )

清める

レビ

that they may offer unto the Lord an offering in  
righteousness.

( ðæt ) ( ðei ) ( meɪ ) ( ɔfə ) ( ʌntu ) ( ðə ) ( lɔ:d ) ( ən ) ( ɔf(ə)rɪŋ ) ( in )  
( raɪtʃəsnes )

ささげる ~に

ささげもの 正義にお

いて

・ may の m はまず唇を弛緩させ、前の母音の音価が少し短めになるように mn を拍の前に歌いだす。このとき、先行する母音の音高だけで歌い、二つ目の母音の前で唇を離し、m や n は母音に連結する。

・ offer の [ɔ] と、Lord の [ɔ:] を十分区別して歌う。

・ righteousness のあいまい母音が [ɹ] 音にならないように注意する。

・ Levi [li:vai] の二重母音に注意

マラキ書

### 9. Air and Chorus O thou that tellest good tidings to Zion

・ good に次の単語が続く場合は語尾 d を強調せず、きわめて軽く発音する。

・ thou のように有声の th は舌を内側に弾きながら息を吹き出す代わりに声を出して発音する。

・ O [oʊ], thou [au] の二重母音に注意して歌う。

O thou that tellest good tidings to Zion,

( oʊ ) ( ðau ) ( ðæt ) ( telest ) ( gud ) ( taɪdɪŋz ) ( tu ) ( zaɪən )

汝 伝える 知らせ シオン

good tidings to Jerusalem, Arise,

( gud ) ( taɪdɪŋz ) ( tu ) ( dʒerusaləm ) ( əraɪz )

エルサレム 起きる

say unto the cities of Judah, Behold your God.

( sei ) ( ʌnto ) ( ðə ) ( sitɪz ) ( ɔv ) ( dʒʊdɑ ) ( bihəʊld ) ( juə ) ( god )

ユダ 見よ

・ Behold your それぞれの二重母音に注意して歌う。

the glory of the Lord. Is risen upon thee

( ðə ) ( glɔri ) ( ɔv ) ( ðə ) ( lɔ:d ) ( ɪz ) ( rɪzen ) ( əpɔ:n ) ( ði: )

栄光 古語：汝を (に)

・ upon thee th の準備のために舌先を外に出したまま、上の歯茎に舌の水かき (舌先のやや後部) をつけておくことによって n を発音できるので、舌先は二回動かす必要がない。そうすることによって、n と th の間に母音を挿

入しないで実際にじっくりした発音ができる。

※「シオン」はユダ(ヤ)の首都エルサレムのこと。この曲はアルトのアリアに続くので、アルトのテキストもふまえる必要がある。ジェネズはイザヤ書40:9と60:1をいともみごとに合体させてテキストを作った事に改めて驚かされる。

※さらに、この O thou that tellest good tidings to Zion, のテーマは、「栄光と救いの到来」を告げるイザヤ書60:1の Arise shine の命令で、各パートがばらばらに対位的に歌われて始まり、見事な和声法が駆使される。ヘンデルの技法の素晴らしさに脱帽する曲である。

## 12. Chorus For unto us a child is born

- ・最初のFor(なぜなら)は、No.11に続く

For unto us a child is born,

(fɔː) (ʌntu) (əs) (ə) (tʃaɪld) (ɪz) (bɔːn)

生まれる

unto us a son is given,

(ʌntu) (əs) (ə) (sʌn) (ɪz) (ɡɪvn)

and the government shall be upon his shoulder;

(ænd) (ðə) (gʌvnmənt) (ʃəl) (bi) (əˈpɔːn) (hɪz) (ʃəʊldə)

主権

肩

and his name shall be called Wonderful, Counsellor,

(ænd) (hɪz) (neɪm) (ʃəl) (bi) (kɔːld) (wʌndəfʊl) (kaʊnsələr)

不思議

助言者

the Mighty God, the everlasting Father, the Prince of Peace.

(ðə) (maɪti) (ɡɒd) (ði) (evə(r) læstɪŋ) (fɑːðə) (ðə) (prɪns) (əv) (piːs)

力ある

永遠の父君

・pの破裂音は、明確さばかりではなく表現力にも関係して来るので、気を配って発音する。「ピースオブピース」と聞こえないよう、くれぐれも注意。

・Peaceの[i:]と、Princeの、[ɪ]を区別する。

・Fatherのように、有声のthのあとに母音が続く時、それを連結して[Fa-ther]のように、次の音節の語頭として発音する。

・called の[ɔ:]と[ou]を区別する。

・bornは、高さの異なる音符で歌うので注意。[bɔːɔːm]と処理すると歌いやすい。(母音の後なのでrは入れない)

・shoulder[ʃouldə]は[ʃɔːldə]にならないよう注意する。

・govenmentのアクセントの位置に注意する

・詩編(2-7)によると、イスラエルの王は即位の折に神の子と呼ばれる、とある。

「驚くべき指導者」政治的指導者

「力ある神」戦士

「永遠の父」民を慮るもの

「平和の君」繁栄をもたらす者

と、解釈すると分かりやすい。

## 17. Chorus Glory to God

No.14から、ソプラノによってルカによる福音書第2章<イエスの誕生を知らせる羊飼いと天使>の様子が語られる。合唱団は、有名な聖句としてNo.17を演奏するばかりでなく、少なくともNo.14からの降誕の様子をしっかりと理解する事によって、「メサイアを演奏した」と、いう満足感を味わってほしい。

Glory to God in the highest,

(glɔ:ri) (tu) (gɔd) (in) (ðə) (haɪest)

栄光

天井

・Gloryの[gl]は、まずはじめにlの準備をして舌尖に歯茎をつけ、その状態のまま二つの子音を発音する。そして、lの前の子音の発音と同時に舌を下ろす。

and peace on earth, good-will towards men.

(ænd) (pi:s) (on) (ə:θ) (gʊd wəl) (tuwɔ:dz) (men)

好意、誠意 ~に対して

・and peace on earthのように、無声のthが休止の前にあるときは、極端に空気を吹き出し、不要な母音を加えないことに注意する。

・towardsの[ɔ:]を、[ə]ouと区別する。とくに、[təwɔ:rdz]と歌いがちである。とくに注意が必要である。

## 21. Chorus His yoke is easy, and his burthen is light

・イタリア風二重唱曲集第15曲<夜明けに微笑むあの花は>の冒頭にもとづいている。

・この曲の歌詞は前の曲からの続き、「主から学べ、そうすれば心に平安が来る。なぜなら主の荷は軽いから(=神は優しく、ゆるしの神だから)」というつながりになる。

His yoke is easy, and his burthen is light.

(hɪz) (jəʊk) (ɪz) (ɪ:zi) (ænd) (hɪz) (bɜ:rdən) (ɪz) (laɪt)

くびき

荷

・burthen の[ə:]と[ə]の区別がつくように。

・lightのlは、拍にぴったり合わせて舌尖を素早く、かつ力強く上の歯茎から離す。舌が降りると同時に有声化するるので、mやnと違って長く伸ばしたり、拍の前に歌いだすべきではない。

・yokeが[ɔ:]、easyが[e:]にならないように注意する。

・「くびき(軛)」は、牛や馬などの家畜が好きや四輪車を引けるように、首からかけられる木製の棒や枠のこと。軛は服従やつらい仕事を象徴する。軽快なメリスマで歌われるeasy(優しい)と、短くつまづくような硬いリズムのburthen(荷)のコントラストを表現したい。

## 22. Chorus Behold the Lamb of God

・シリアスな「見なさい」という言葉なので、軽くならないこと。イ→オの母音の移動に注意して、音楽の流れを絶やさないように。(beholdは動詞命令形"see"と同じ意味の雅語である)

Behold the Lamb of God that taketh away

(bihould) (ðə) (læ(:)m) (ɔv) (gɒd) (ðæt) (teikəθ) (əwei)

見よ 子羊 取り去る

・Lambの語頭[l]は、拍にぴったり合わせて舌先を素早く、かつ力強く歯茎から離す。舌が降りると同時に有声化するの、mやnと違って長く伸ばしたり拍の前に歌いだすべきではない。beholdの二重母音に注意して歌う。

・that taketh away the sin of world

語頭[t]に続く語尾tは省略して、語頭tを少し長めに発音する。takethの破裂音[k]は、息が流れて口の中に引っ込めることなく、口の外に思い切って強く吹き出して発音する。また、二重母音に注意して歌う。awayの接頭語aにはアクセントはなく、[ə]として歌うことに注意。

the sin of the world.

(ðə) (sin) (ɔv) (ðə) (wɜ:ld)

罪

・「子羊」Lambは、第2部の冒頭の合唱(ヨハネ福音書1:29)であるこの曲と、メサイアを締めくくる終曲のNo. 53の合唱(ヨハネの黙示録5:12)の要所に二回現れる。洗礼者ヨハネは、イエスを例えて、散らばった民を一つに回復する為に、屠り場に黙々と引かれて行くいけにえの子羊のようだと書いた(イザ53:4-12)。人の罪の為に犠牲になった子羊としてのイエスが描写されているのである。

## 24. Chorus Surely He hath borne our griefs

・fに子音が続く場合、fの前の母音を十分伸ばして次に来る子音の直前でfを発音する。fの子音の間には破裂音があるが、不要な母音をつけないでできるだけ近づけて上品な音にする。これがgreaseのように聞こえてはいけない。surelyのアクセントの位置に気をつける。

Surely He hath borne our griefs, and carried our sorrows!

(ʃʊəli) (hi) (hæθ) (bɔ:n) (aʊə) (gri:fz) (ænd) (kærid) (aʊə) (sɔ:rəʊz)

まことに (古語: have bearのp.p) 耐えた 苦痛を 担う 悲しみを

・sorrows短母音の[ɔ]と、二重母音の[əʊ]に注意する。

He was wounded for our transgressions;

(hi) (wəz) (wʊndəd) (fɔ:) (aʊə) (trænsgrɛʃəns)

傷ついた 罰

He was bruised for our iniquities;

(hi) (wəz) (bru:zəd) (fɔ:) (aʊə) (inikwiti:z)

痛めつけられる 罪(不正)

・bruisedのbとrの間に不要な母音を加えないことに注意する。

the chastisement of our peace was upon Him.

(ðə) (tʃæstaɪzmənt) (ɔv) (əʊə) (pi:s) (wəz) (ʌpən) (hɪm)

懲罰

・the chastisement of our peace was upon Him. (私達の平和の責めは彼の上にある) →私達の罪を、責める彼が代わりに受けた、その前提の上に私達は平安でいられる、という解釈。

25. Chorus And with His stripes we are healed

・冒頭の楽句の音程は、バッハの平均率クラヴィーア曲集第2巻第20番のフーガの他、モーツァルトのレクイエムの<キリエ・エレイソン>と、<クム・サンクティス・トウイス>※バッハは生涯会うことのなかった、同年生まれで、ドイツを出て活躍するヘンデルの大ファンだった。モーツァルトはヘンデル死後、依頼によってドイツ語版メサイアを編曲、演奏している。

And with His stripes we are healed.

(ænd) (wɪð) (hɪz) (strips) (wi) (ɑː) (hi:lɪd)

むちで打たれた傷 癒される

・前置詞withよりもHis stripsのほうが重要であるから、有声thをあまり強調して歌わない。わかりやすい語順にするとAnd we are healed with His stripes.になる。

26. Chorus All we like sheep have gone astray

・イタリア風二重唱曲集第16曲<私はお前達の裏切りを知る>の冒頭の曲にもとづいている。  
・この文は、All we have gone astray like sheep, and we have turned every one to his own way.の語順にするとわかりやすい、この場合のandは「それなのに」と訳したい。ここでは強い譲歩(～にも関わらず)の意を含んでいる。

All we like sheep have gone astray;

(ɔ:l) (wi) (laɪk) (ʃi:p) (hæv) (gɒn) (ə'streɪ) ←アクセント位置??

迷って

・allは8分音符であるが、[ɔ:l]を十分のぼして音符の最後にlを発音する。

we have turned every one to his own way

(wi) (hæv) (tɜ:nd) (evri) (wʌn) (tu) (hɪz) (oʊn) (wei)

向う everyone各々

・turnedの[ɜ:][ɑ:]を区別して歌う。

and the Lord hath laid on Him the iniquities of us all.

(ænd) (ðə) (lɔ:d) (hæθ)(leɪd) (ɒn) (hɪm) (ði)(ɪnikwɪtɪz) (ɔv) (əs) (ɔ:l)

(古語: have)課す、加える 罪(不正)

・イザヤ書の53:6では、"私達はみな羊の群れ、道を誤り、それぞれの方向に向かって行った"と、あるが、預言者イザヤは自分たちが神の群れから離れてしまっていること、即ち、イエスの弟子達の欺きを語っていると思われ

る。No.24から3連続する合唱は、はじめて長調に変わり、勝手な行動をとる子羊を表しているが、最後のadagioからは突如短調に変わり、自分たちの犯した罪の意識を想起させている。

### 28. Chorus He trusted in God

・ヘンデルは、このNo.28で初めてフーガのスターターを低声（男声）で起用している。この場はやはり、すごみのあるドスの利いたパスから始まって、テノール、アルト、ソプラノと移ることによって臨場感を表しているものと思われる。

・ **delight, deliver**などの接頭語 **de-**は決して **dee-**と発音してはならない。

・この曲は、前のNo.27テノールのAriosoの続きであるから、まとまった1曲として、十字架に磔になったイエスをのしる群衆の一人になった気持ちで演奏しなければならない。（しかし、音色が濁ることは許されないのはTIVEのみなさまには自明のことであろう）

He trusted in God that He would deliver him;  
(hi) (trasted) (in) (god) (ðæt) (hi) (wud) (dilivər) (him)  
信じる 解放する

let Him deliver him, if He delight in him.  
(let) (him) (dilivə) (him) (if) (hi) (diləte) (in) (him)  
喜ぶ

### 33. Chorus Lift up your heads, O ye gates

・一回目のliftは、他動詞で「持ち上げよ」、二回目のliftは、正確にはliftedで、自動詞の受け身「持ち上げられよ」の意味になる。

Lift up your heads, O ye gates,  
(lift) (ʌp) (yuə) (hedz) (ou) (ji:) (geits)  
上げる 汝ら 門  
and be ye lift up, ye everlasting doors,  
(ænd) (bi) (ji:) (lift) (ʌp) (ji:) (evələ:stɪŋ) (dɔ:z)  
永遠の 扉

※金井先生より：doorsは、[ɔ:]で長く伸ばし、後ろのrは巻かないので発音しないが、現代アメリカ英語的にすばめた発音でなく、小さくはなるがきちんと母音を屈けてほしい。（他の語尾の母音+rの場合も）

and the King of Glory shall come in.  
(ænd) (ðə) (kiŋ) (ɔv) (glɔ:ri) (ʃəl) (kʌm) (in)

・破裂音[k]は、後舌面をできるだけ軟口蓋の高い位置に上げ、そこから聞こえる程度に息をたっぷりと吹き込んで発音する。そのことによって意味がよくわかり、表現力を増す演奏が可能になる。[ɔ:]と[ou]をしっかりと区別して発音する。

Who is this King of Glory?

(hu:) (iz) (ðis) (kiŋ) (ov) (glɔ:ri)

The Lord strong and mighty,

(ðə) (lɔ:d) (strɔŋ) (ænd) (maɪti)

力強い 勇ましい

the Lord mighty in battle.

(ðə) (lɔ:d) (maɪti) (in) (bætl)

戦いにおいて

the Lord of Hosts,

(ðə) (lɔ:d) (ov) (həʊsts)

万軍の主 (エホバの神)

- hostsは、二重母音で、[h][ɔ]と間違わないように注意する。

He is the King King of Glory.

(hi) (iz) (ðə) (kiŋ) (kiŋ) (ov) (glɔ:ri)

・この詩編は元来、礼拝者が新田に入る儀式の中で歌われたとされている。また、ここでの問答は、礼拝の一部で、礼拝者と祭司が契約の箱を神殿に運び入れる入場典礼の際に交互に読んだとされている。契約の箱は、神の地上における玉座 (神が民とともにいる場) と、みなされた。

・ the Lord of mighty battle (雄々しく戦われる王) : 古代中近東の文化では、神々の戦いの結果世界は生まれた、という考え方からきている。

・ the Lord of Hosts (万軍の主) : 全被造物の統治者であるイスラエルの神を指す呼称。ヘブライ語では、「ヤハウェ・ツェバオート」 (軍勢の主)

・ この曲の冒頭はのモチーフは、調こそ違え、No.17 Glory to God in the highest と同じである。

### 35. Chorus

・ 二重フーガの例。主題を伴奏するものは、同じ主題の縮小されたものであり、それが同時に二重フーガとしての第二の主題になっている。

Let all the angels of God worship Him.

(let) (ɔ:l) (ði) (eɪndʒəlz) (ov) (gɒd) (wɔ:ʃɪp) (him)

御使いたち 拜む

- ・ worshipの[ə]と、warship (軍艦) の[ɔ]を区別して歌う。

### 37. Chorus The Lord gave the word

※合宿にて：どのパートも前のめりになりがちなので、メリスマとメリスマの間に出てくるpreachersのpreaをながく歌って、テンポを保つことを意識。

The Lord gave the word,  
(ðə) (lɔ:d) (geiv) (ðə) (wɔ:d)

- ・gaveの[eɪ]の二重母音に注意する。
- ・wordと、ward[wɔ:d] (防ぐ、保護する) とを区別して歌う。

great was the company of the preachers.  
(greɪt) (wɔz) (ðə) (kʌmpəni) (ɔv) (ðə) (prɪtʃəz)

一緒の人々 伝道者達

- ・companyの[ʌ]が[ɔ]にならないように注意。8分音符のgreatの[eɪ]を素早く発音する。[e:]にならないよう気をつける。
- ・この文は、倒置して The company of the preachers was great に並べると分かりやすい。
- ・この詞は、詩編68:12を用いられていると考えられているが、歌詞と比べてみると、ジェネズは詩編68:12をもとに、次にくるソプラノのアリア (How beautiful-) (ローマ信徒への手紙10:15) にあるpreach (伝導する、述べ伝える) に即って作詞したと考える。(祈禱書からの引用と考える学者もいる)

### 39. Chorus Their sound is gone out

The sound is gone out into all lands,  
(ðəə) (saʊnd) (ɪz) (gɔ:n) (aʊt) (ɪntu) (ɔ:l) (ləndz)

声、響き ~までいき渡る、

and their words unto the ends of the world.  
(ænd) (ðəə) (wɔ:dz) (ʌntu) (ði) (endz) (ɔv) (ðə) (wɔ:ld)

及ぶ (=to)

・theirのrを省略して前の母音を伸ばす。all landsのように、語尾lに語頭lが続く時、間を空けないで両方も発音する。allの語尾lは、先行する母音の一部として歌われる。舌尖は上の歯茎にしばらく触れて、それからlandsの語頭lを発音するためにはじかれる。二つの単語を分離させないために単語と単語の間で、舌の上を歯茎から離してはいけない。

・word、worldが、ward[wɔ:rd] (防ぐ、保護する) になったり、walled[wɔ:ld] (壁、仕切り壁) にならないように注意する。

### 41. Chorus Let us break their bonds asunder

- ・asunder[ə'sʌndər]のrを省略して、前の母音で伸ばす。開放的な音になりすぎないように注意。
- ・breakは、二重母音[eɪ]
- ・awayのようにaで綴られる接頭語にはアクセントがなく[ə]で歌うことに注意する。

Let us break their bonds asunder,  
(let) (ʌs) (breɪk) (ðəə) (bɔndz) (ə'sʌndər)

and cast awa their yokes from us.

(ænd) (kɑ:st) (əwe) (ðeə) (jəʊks) (frɒm) (ʌs)

・この曲も前のバスのアリア(Why do the nations, 詩編2:1,2)に続く詩編2:3であるから、楽譜の指示通りattacaで演奏されなければならない。演奏効果を上げるためにも、彼らが口ぐちに語った内容だから、「」で括って考えるとよい。(詩編2:1-3)

1 なにゆえ、国々は騒ぎたち、人々はむなしく声を上げるのか。

2 なにゆえ、地上の王は構え、支配者は結束して主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか

3 「我らは枷をはずし、縄を切って投げ捨てよう」と。

#### 44. Chorus

・mがnに続く場合は、不要な母音を加えてOm-ah-nipotentと歌ってはいけない！

・mnの準備のために上の歯茎がくつつくまで唇を閉じてmnをハミングする。mnの後で唇を開かないでmnの後で舌を離して発音する。また、omnipotentのアクセントの位置に注意して歌う。

・forは「なぜなら」の意味で、becauseと同じ。forのあとを気持ちあけてthe Lord-と続けると意味がわかりやすい。

・Lordと、God omnipotentは同格のものを並べている。この場合のandは不要。

・becomeのような接頭語be-は、不自然で気取った感じになるのでbee-と歌わない。is becomeは現代ではhas become (完了形の古い形)となる。

Halleluja: for the Lord God omnipotent reigneth.

(hæli:lʊ:ʒə) (fɔ: ) (ðə) (lɔ:d) (gɒd) (ɒmni:pətənt) (reɪnəθ)

ハレルヤ (主をほめたたえよ) 全能の 主権を握る

The Kingdom of this world is become

(ðə) (kiŋdəm) (ɔv) (ðis) (wɜ:ld) (iz) (bi:kɒm)

the kingdom of our Lord and of His Christ;

(ðə) (kiŋdəm) (ɔv) (aʊə) (lɔ:d) (ænd) (ɔv) (hɪz) (kraɪst)

and He shall reign for ever and ever.

(ænd) (hi) (ʃəl) (reɪn) (fɔ:) (evə) (ænd) (evə)

統治する、支配する

KING OF KINGS AND LORD OF LORDS. Halleluja!

(kiŋ) (ɔv) (kiŋz) (ænd) (lɔ:d) (ɔv) (lɔ:d) (hæləlu:ʒə)

・この歌詞をみるだけでも、ジェネズがいかに聖書に精通していたかがわかる。ヨハネの黙示録からなんと素晴らしい詞を編んだものだろう。

・モーツァルトのハ短調ミサ（大ミサ）k.427の〈グローリア〉の中に現れるin excelsisの箇所が、よく似ている。

### 第3部

#### 46. Chorus Since by man came death

・the deadは、the + 形容詞deadで、「死者」の意。forは「なぜなら」。even so-は、「~であるのと同じように、なおいっそう」と訳すとよい。even so in Christの二重母音[ou]に注意する。

・shall allのように、語尾lに母音で始まる単語が続く時、語頭lとして歌う。即ち、二つ目の単語の語頭のように扱う。（わからないようにちよっと食う。No.24の出だしも）

・came および resurrectionの破裂音[k]は後舌面をできるだけ軟口蓋の高い位置に上げ、そこから聞こえる程度にたっぷり息を吹き込んで発音する。

・resurrection 子音の前はまず、k……f、k…f、k..f、k.f、kfのように、それぞれを破裂させながらゆっくりささやいてみて、それからkとfとの間に次第に縮めて練習する。[k]の後に、不要な母音を加えないことに注意を要する。

・deathのように、無声thが休止の前にあるときは、極端に空気を強く吹き出し、不要な母音を加えないことに注意する。

Since by man came death,

(sing) (bai) (mæn) (keim) (deθ)

-なので 死

by man came also the resurrection of the dead.

(bai) (mæn) (keim) (ɔ:lso) (ðə) (rezərekʃən) (ɔv) (ðə) (ded)

復活 死者達

・also[ɔ:lso]の、[ɔ]と[ou]の両方とも注意して歌う。

For as in Adam all die

(fɔ:) (az) (in) (ædəm) (ɔ:l) (dai)

アダムにおいて

even so in Christ shall all be made alive.

(ivn) (so) (in) (kraist) (ʃəl) (ɔ:l) (bi) (meid) (əlaiv)

キリストにおいて

生きている

・「死者の復活」（コリント信徒への手紙 I 15:21）で、「死者」はア・カペラのgraveで、「復活」は伴奏つきのAllegroでコントラストをはっきりさせていることに注意。

#### 51. Chorus But thanks be to God

But thanks be to God who giveth us the victory  
 (bət) (θæŋks) (bi) (tu) (gɒd) (hu:) (giveθ) (əs) (ðə) (viktəri)  
 すべき 与えた 勝利

through our Lord Jesus Christ.  
 (θru:) (aʊə) (lɔ:d) (dʒizʊəs) (kraist)  
 ~を通じて イエス キリスト

### 53. Chorus Worthy is the Lamb that was slain

・この歌詞の内、and hath redeemed us to God by His bloodの部分は欽定訳聖書の原文にないことから、ジェネズが挿入したものである。この文は倒置であり、the Lamb<that was slain and hath redeemed us to God by His blood>is Worthy to receive power〜と、考えるとよく理解できる。

・メサイアの終曲は、「ヨハネの黙示録」からの引用で締めくくられる。テキスト自体も高らかな賛美の歌にふさわしい内容で、J.S.バッハもカンタータ21番の終曲でこのテキストを使っている。

Worthy is the Lamb that was slain,  
 (wɔ:ði) (iz) (ðə) (læm) (ðæt) (wəz) (sleɪn)

ふさわしい 虐殺、殺された

・Lは拍にびったり合わせて舌先を素早くかつ力強く上の歯茎から離す。舌が降りると同時に有声化するので、mやnと違って長く伸ばしたり、拍の前に歌いだすべきではない。everのrは省略して、その前の母音を伸ばして歌うが、母音がはっきり届くのは望ましいが、開放的になりすぎないように注意する。

and hath redeemed us to God by his blood,  
 (ænd) (hæθ) (redɪməd) (əs) (tu) (gɒd) (baɪ) (hɪz) (blʌd)

救う

・bl, glはまずはじめにlの準備をして舌先を歯茎につけ、その状態のまま二つの子音を発音する。そして、lの子音の発音と同時に舌を下ろす。redeemedの接頭語re-は[reɪ]ではない。

to receive power, and riches, and wisdom, and strength,  
 (tu) (rɪsɪv) (paʊə) (ænd) (rɪtʃɪz) (ænd) (wɪzdəm) (ænd) (streŋθ)

受ける 富 知恵 勢い、強さ

・receiveの接頭語reは[i]であり、[e]になってはならない。・strength: 無声のthが休止の前にあるときは極端に空気を強く吹き出し、不要な母音を加えないことに注意。

and honour, and glory, and blessing.  
 (ænd) (ɒnə:) (ænd) (glɔ:ri) (ænd) (blesɪŋ)

名誉 栄光 賛美

Blessing, and honour, glory and power,

(blesiŋ) (ənd) (ənəː) (glɔːri) (ənd) (páʊə)

be unto him that sitteth upon the throne,

(biː) (ʌntə) (him) (ðæt) (sɪt̪<sup>e</sup>θ) (əpən) (ðə) (θrəʊn)

～に 座っている ～の上に 玉座,御座

and unto the Lamb, for ever and ever.

(ənd) (ʌntə) (ðə) (læm) (fɔː) (evə) (ənd) (evə)

Amen

(ˈɑːmən)

アーメン(かくあらせたまえ)

第2部の終曲ハレルヤでも述べたが、第3部の終曲もヨハネの黙示録を用いている(第1部は旧約聖書の詞を引用しており、田園曲を境に第2部からは新約聖書から詞が選びとられている。大いなる時の流れよく意識している構成である。)。ジェネズがいかに巧みに詞作したかを深く理解するために、ここに訳を引用する。(黙5:9～)

9そして彼らは新しい歌を歌った。

「あなたは巻物を受け取り、

その封印を開くのにふさわしい方です。

あなたは屠られて、

あらゆる種族と言葉が集う民、

あらゆる民族と国民の中から

ご自分の血で、神のために人々を贖われ

10彼らを私達の神に仕える王

また祭司となさったからです。

彼らは地上を統治します。」

11また、私は見た。

そして玉座と生き物と長老たち

その周りに

多くの天使の声を聞いた。

その数は

万の数万倍

千の数千倍であった。

12天使たちは大声で言った。

「屠られた子羊は

力、富、知恵、威力

誉れ、栄光、そして

賛美を受けるにふさわしい方です。」

13また私は

天と地と

地の下と

海にいる全ての被造物

そしてそこに在るあらゆるものがこう言うのを聞いた。

「玉座に座っておられる方と子羊とに

賛美、誉れ、栄光、そして権力が

世よ限りなくあらせられますように」

14四つの生き物は

「アーメン」と言い、

長老たちは

ひれ伏して礼拝した。